

## 地域再生計画（地方創生汚水処理施設整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	岡山県	事業実施主体	瀬戸内市	地域再生計画名	きれいな水を未来へ渡すまち瀬戸内市再生計画
計画期間	平成29年度～令和4年度	評価責任者	瀬戸内市役所 上下水道部 部長 松本 孝之		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標		基準値		中間目標値 ※下段R3実績値			最終目標値			事後調査	最終目標値の実現状況に関する評価
	指標 1	瀬戸内海海域の水質改善 放流海域の水質COD （化学的酸素要求量）	2. 4mg/L 以下	H28	2. 1mg/L 以下	R1	2. 2mg/L	2. 1mg/L 以下	R4	2. 0mg/L		
指標 2	若年層の定住人口の増加 社会増減増加数 （20歳から39歳まで）	—	H28	48	R1	74	80	R4	131	○	官民で構成する瀬戸内市移住交流促進協議会が、移住・定住に係る市のPR媒体や体験施設を効果的に活用しながらPRや受入支援に取組んだことや、市民に対してテレワークの就業機会を提供したことなどが後押しとなり、目標値を達成できた。	
指標 3	汚水処理人口普及率の向上	80%	H28	83%	R1	86%	85%	R4	77. 6	△	汚水処理人口普及率算定に誤りがあり、目標値・実績値ともに約10%多めに設定していたため指標は未達成という結果だが、下水道事業及び浄化槽事業の整備が進み、実績値はH30：74. 49%、R1：75. 47%、R2：76. 14%、R3：77. 19%と着実に普及しており、今後も引き続き事業計画エリアの面整備を進めて、汚水処理人口普及率の向上を図っていく。	
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1											
	指標 2											
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間（R1）	最終実績							
特別措置を適用して行う事業	特定環境保全公共下水道事業 【管渠整備】 牛窓・邑久・長船中央処理区		11, 000m	6, 252m	10, 379m	今回の整備により、目標の9割以上を達成することができ、概ね目標通りの下水道管渠延長を延伸することができたと考えている。引き続き水質汚濁や悪臭などの解消を図るため、下水道事業計画区域の面整備を推進する必要がある。						
	特定環境保全公共下水道事業 【ストックマネジメント計画に伴う改築】 牛窓・邑久・長船中央処理区		3, 000m	—	2, 943m	ストックマネジメント計画に伴い、管路調査を実施し緊急度の判定を行った結果、当初想定したよりも管路が健全な箇所が多かったため計画整備量に達成することができなかったが、最終年度末には、目標の9割以上を達成することができた。今後も、ストックマネジメント計画に基づき適切に事業を進めていく。						
	浄化槽（個人設置型）		570基	253基	519基	平成29年度から現在の令和元年度までの3か年は、計画の基準値とした平成28年度と比べ、1年での実施基数が大幅に減少した。そのため中間年度での実施基数は、計画当初の見込み計画基数より大きく減少している。これを受けて計画期間を1年延伸し、最終実績が519基の着地となった。引き続きホームページや窓口、業者へ補助金促進を促す。						
その他の事業	移住定住促進事業		市職員、移住支援団体協働の移住促進及び受入支援事業			市職員、移住支援団体等で構成する瀬戸内市移住交流促進協議会を担い手として、都市圏での移住相談会への出展やホームページその他の市の媒体を活用したPRのほか、空き家バンクその他制度の利用誘導やマッチングなどの積極的な受入支援を行った。今後も、当該担い手と連携した積極的な取組や施策の強化を行っていく。						
	瀬戸内海海域環境回復事業		市職員・地域住民・漁業関係者等によるボランティア清掃			H29年度に、市職員・地域住民・漁業関係者等の約100名の参加者によりボランティア清掃を実施し、瀬戸内海海域の水環境の回復を図ることができたと考えている。H30年度、R元年度においては、台風の接近により中止し、R2年度はコロナウィルス蔓延防止のため中止していたが、R3年度はボランティア清掃を実施した。今後もボランティア清掃を実施する他、観光客・地元住民の啓発を図るため、環境に係る広報活動を行い、水質改善に努めていく。						
	計画外で独自に実施した事業		汚水処理施設の接続促進			供用開始となった区域において、汚水処理施設への早期接続等を促進するため、市発行の広報誌等で普及啓発を行うことにより、水洗化率の向上を図ることができた。今後も、普及啓発を行いさらなる早期接続を促していく。						
④評価方法	「数値目標に対する最終実績値」及び「整備量や取組の計画に対する最終実績」から、計画期間内の実施事業について評価を行った。											
⑤事後評価の公表方法	瀬戸内市上下水道部下水道課のホームページに掲載											
⑥計画全体の総合評価	地方創生汚水処理施設整備促進交付金を活用した特定環境保全公共下水道事業と個人設置型浄化槽事業を一体的に実施し、特定環境公共下水道事業については、概ね目標通りの延長を整備することができたと考えている。一方、個人設置型浄化槽事業については、社会情勢等の影響により実施基数が減少したと考えている。しかし、汚水処理人口普及率は毎年度確実に向上していることから、生活環境の改善及び瀬戸内海海域の水質改善を図ることができたと考えている。											
⑦今後の方針等	具体的内容											
	引き続き汚水処理施設整備交付金を活用して、公共下水道と浄化槽事業の整備を効率的に一体となって進めていく。また、合わせて河川・瀬戸内海の水質汚濁を防止し、きれいな水を未来に渡すまちにつながる取組を継続していく。人口減少により汚水処理人口普及率が下回る恐れがあるが、他局と連携し若年層に魅力を感じてもらえるベットタウンにするために、住環境の整備を行い汚水処理人口の向上に寄与する。また、市発行の広報誌や市ホームページを活用し、既存の単独処理浄化槽や汲み取りからの合併処理浄化槽への転換を促進していく。											